

## テーマ 「減災技術ワーキングチームの活動」

～地域防災力向上のために、技術士は今後何をすべきか～

機関名: 防災支援委員会 ワーキングチーム-B

氏名: 川原 伸朗／かわはら のぶお (建設／総合技術監理)

Mail: kawahara-nb@oriconsul.com



### 「減災技術ワーキングチーム-Bの活動」

現下、我が国では昨年発生した東日本大震災からの復興、さらには今後発生が予想されている首都圏直下型地震、あるいは東海・東南海・南海地震（連動）による津波対策へと新たな取り組みが始まっている。東日本大震災からの復興と新たな激甚災害への備えを同時に進め、我が国の安全・安心な社会を築くことが今求められている。

東日本大震災でも改めて認識されたとおり、災害を防ぐ「防災」という考え方には限界がある。そのため、平常時に十分な備えを行い、いざ災害となればその被害を最小限に抑えて、事業や生活を継続させ、できるだけ早く発災前の状態に戻り、早期に、しかも経済的に復興を遂げる回復力（resilience）を得ること、すなわち「減災」が大切なポイントになる。

至極当然のことながら、災害が発生した際に最も大切なことは人命が損なわれないことである。

ところが、誰しも災害が起こるまでは、「まさか命を落とさないだろう」と錯覚しているかも知れない。いつ何時起きても不思議ではない大地震やそれに伴う津波では、多くの人命が損なわれることが「これまでの被災実績に基づいて予想されている」ことを重く受け止め、その脅威に備える知恵が必要である。

分かり易い表現を使うならば「まず自分が生き残る知恵」を持つことが減災の基本と言える。自身が生き残れたならば、他人を助けることができる。他人を助ける人が増えれば増えるほど、共助が機能し回復力を発揮することができる。

私たち防災支援委員会ワーキングチームのメンバーは、「減災」の考え方をできるだけ平易かつコンパクトにお伝えするためのツールとして、平成21年（2009年）から小冊子「減災技術豆知識」の編纂に取り組み、今回で4号目となる。

今回の2012-2013年版では、災害やリスクに関する情報の捉え方も含めて、地震を初めとする災害の脅威への処し方を考えるうえで参考になる題材を取りまとめた。

また、原稿執筆者を公募しワーキングメンバー外からも3本の原稿が集まった。その意味では活動の幅を広げることが出来たと考えている。

この小冊子によって、ここで取り上げたテーマに関する様々な議論が惹起されることで、人々の減災への関心がこれまで以上に高まっていくことも、編纂者一同大いに期待しているところである。

収録テーマと執筆者

- |                              |        |
|------------------------------|--------|
| 1. 減災に役立つ不正確情報               | (藤田嘉美) |
| 2. 地震大火からの避難について 過去の大火に学ぶ!   | (菊地 章) |
| 3. 首都直下地震に対するマンション住民のサバイバル方法 | (山口 豊) |
| 4. 都心における減災 ～地形図からリスクを知る～    | (橋爪慶介) |
| 5. 災害時の人間の心理                 | (上野雄一) |
| 6. いのちを守る知恵と技術               | (佐藤隆雄) |

参考資料 2011.8～2012.8の災害発生状況とトピックス

表 紙



以上